

# 概要報告

実施期日	7月29日(火)【午前】
部会名	小学校 総合的な学習の時間部会

テーマ 『協同的・探究的な学習を楽しむ子ども達の姿を目指して』

## 提案概要

〈概要〉

- ・4年生の実践発表。
- ・「十歳の会」で伝えるという場を設定し、自分自身で成長を実感できるような活動を、子どもたち自身の手で作ってほしいという思いで実践を行った。
- ・自ら考え、取り組み、振り返りを行うことで、よりよい活動を考えさせながら進めていった。

〈資料から〉

- ・授業実践校での総合的な学習の時間の全体計画、本実践の位置づけの説明。
- ・授業についての説明

◎十歳の会での活動を考える。

◎ピタゴラ装置作りに決まる。(担任としては難しいと感じながらも、あえて活動を進める。)

◎活動がうまく進まず、問題点を話し合う。

○みんながやりたい事をやりすぎてしまった。

○自分達には難しすぎた。

○楽しすぎてなにをしたいのかが分からなくなってしまった。

○計画をちゃんと考えればよかった。 など

◎担任が劇をすることを提案し、ピタゴラ装置作りでの学びを生かしながら取り組む。台本作り、立ち稽古、1回目発表、振り返り、立ち稽古を経て、本番を迎える。本番では、保護者だけでなく、低学年にも見てもらう。

〈実践上の工夫および言語活動の充実についての説明〉

◎一人ひとりにファイルを渡し、振り返りシートによる自己評価を毎時間行った。

◎劇を前半と後半に分け、お互いによる評価を子どもたち同士で行わせた。

◎過去のクラスで行われた劇のDVDを子どもたちに見せたり、演劇の先生を招いて子どもたちに直接アドバイスをしてもらったりすることで、子どもたちに活力を与えるためのしかけを用意した。

〈成果〉

◎見てくれている人の喜ぶ姿を通して、子どもたちが自分達の成長を実感できた。保護者からの温かいコメントから、子どもたちは充実感を感じることができた。

〈課題〉

◎子どもたちの関心・意欲に基づいた活動をさせてあげることと、出来の良いものを作らせたいという思いの折り合い。

◎興味・関心に基づく活動を行うための時間の保障をどのように行っていくか。

## 質疑概要

質：単元計画について、本番の後の時間配分は？

答：振り返りを書かせて、学級通信に載せた。保護者や下級生の感想を紹介したりして振り返りを行った。

質：ピタゴラ装置作りの失敗があったので、一旦やってみたからこそ次の劇がうまくいったのでは？

答：実際、失敗すると思っていた。劇になるだろうなという感覚は担任としてあった。

質：先生の「児童を信じて挑戦する機会を与えてみる。」姿勢は大切だと感じた。挑戦する機会を与えることは時間とのせめぎ合いではあるが大切である。

答：力をつけようと狙っていくと活動の幅が狭まるような気がする。一旦活動を児童に任せて、出来るだけ幅を狭めないような意識はあった。

質：ピタゴラ装置作りの活動で目標を達成できなかった時の子ども達の様子を知りたい。

答：漠然と話し合うのではなく、自分に身近な問題として切迫感を持って子どもたちは話し合っていた。

質：始める前と始めた後の様子の違いについては？

答：次の学年になって、「劇をやりたい」という児童もいる。

質：現時点での総合についての解釈と、言語活動の充実としてどの活動を重視して取り組んだのか。提案者のとらえた成功と子ども達の成功の違いについて知りたい。目標は？

答：教科書通りに進む事無く子ども達の関心に基づき活動ができるのが総合だと感じる。目標は学年で考えた「自己の成長を実感しつつ保護者に伝える」と言うのが目標。それに沿いながら、クラス単位で活動した。担任の考える成功はあるが、それを自分が決めて実現しても子ども達にとっての成功とは言えない

質：先生にとっての成功とは？

答：自己の成長を実感しつつ保護者に伝えるというのが成功。発言の仕方の指導などもした。

意：形としての結果を重視することと、児童の興味・関心とのバランスが難しい。ピタゴラ装置作りのあとの意見こそ大切である。

意：ここに学活などと総合の違いがあるのではないか。振り返るツールも用意されているので、子ども達も成長してきたのではないか。ある程度教え込む部分があるというのも必要だとも思う。

## 研究協議概要

4人ずつ8グループに分かれて、特に形としての結果を重視することと、児童の興味関心を重視する事とのバランスについてグループ討議を行った。以下の意見が出てきた。

- ・児童の興味関心を応援する形（見に行く、本物を持ってくる）が教師のしかけになるのではないか。子ども達の自己評価にどれだけ寄り添えるか。書いたものなどに、コメントを書いて返答したりすることも大切である。
- ・全体として教師の適切な指導が必要。結果の成功か失敗かではなく、過程が大切であり、目標を意識させつつつけることが大切だ。
- ・自由な発想と言っても、いままでの経験が必要であり、線として学年間のつながりがあれば、経験が蓄積され、より成長できる。押し付けにならない程度に、道を教師側が指し示すのも必要である。
- ・結果と児童の興味・関心についてはバランスが大切。「ピタゴラ装置作りから劇」の流れでの体験は、次の学年でも考える糧となっている。子ども達に寄り添いながらも、修正してあげるのは必要。本物に触れさせるのも大切だ。
- ・振り返りシートも、もっとより具体的なことについて書くようにすると自己の成長も感じられ、意欲につながるのではないか。
- ・結果より過程が大切と言っても、終着点、目標を意識させ続けることも大切である。どうしてもよいからやりなさいではなく、長く緩い手綱でも握っている必要がある。
- ・ピタゴラ装置作りの失敗がとても活動の中で大切である。目指すものがあっていいと思う。時間の制限があるので、劇一本で教師が押し進めるのも、ひとつのやり方であると思う。
- ・「つけたい力」がしっかりしていれば、課題や評価などが明確になる。それが、総合の大切さでもあると思う。

## まとめ概要

「総合的な学習の時間とは何か」までさかのぼって話をするのは大切である。ただ経験しただけでも身につくことはあるが、これは偶然の結果である。偶然を必然にするために先生がしかけをするのも総合では大切である。振り返り、保護者の感想など、提案者の実践の中にも教師の意図や仕掛けはある。原点や目標を明確にすることで、必然により近付けることができるようになるし評価も明確になる。また、振り返りもただの感想とするのではなく、自分たちがどう成長したのかに気付けるような工夫があるとさらによい。結果だけに視点が向く振り返りではなく、失敗から何を学んだのか、どう成長したのかが具体的に分かる振り返りを行うことで、子どもたちが自己の成長をより明確に実感するとともに、次への課題とつながり、総合的な学習の時間での探究的な学習のスパイラルを確かなものに行うことができる。